

# 他校と交流、意見交換

## 太田一高生徒会

### ICT活用 校則テーマ 社会貢献活動も視野

県立太田一高(常陸太田市栄町、鈴木清隆校長)の生徒会が、他校の生徒会と特色ある取り組みや学校生活の課題などについて意見交換する「生徒会交流会」に取り組んでいる。公私立を問わず、離れた高校とでも情報交換できるビデオ会議システム「Zoom」を利用したオンラインミーティング。生徒会が主体的に企画・運営し、将来的には高校生による社会貢献活動が可能な交流会を目指しているという。

同高生徒会が「他校の取り組みや学校のシステムについて情報交換すること、学校のよりよい在り方を考えていきたい」と他校



大内純教諭(背中)とインターネットで交流会の打ち合わせをする生徒会役員=常陸太田市栄町

の生徒会に呼び掛け実現。日程の調整や意見交換の内容など他校との打ち合わせも生徒主体で行うなど、生徒会が課題の抽出や議論の

場づくりに取り組む活動は全国的にも珍しいという。第1回県高校生生徒会交流会は6月下旬、太田一高のほか、水戸市内の水城高校と県立水戸一高の生徒会が参加して開いた。ICT(情報通信技術)の活用方法をメインテーマに、日頃の生徒会活動について発表し、質疑を行った。

太田一高3年の及川叶人さん(18)は「提案があった時はオンラインで他校と結び付く難しさを感じたが、プランがしっかりしていたので賛同した」と打ち明ける。

生徒会長の高岡優璃さん(18)も「大き過ぎるプランとも思ったが、すてきなアイデアとも感じた。遠い学校とのつながりが持てることにワクワクした」と振り返り、「広い意見を集める

こと、よりよい学校づくりができていくのには」と期待する。

会則やホームページの作成にも着手している。生徒会交流会を提案した3年の鈴木大和さん(17)は「過性の交流会ではなく、きちんとした組織で活動していくために会則、ホームページを作り、今後も引き継がれる組織にしたい」と意気込む。

現在は第2回交流会の準備を進めているところで、16日と22日を予定。大学生や社会人とも連携を取りながら、「教育」をテーマに、「校則」と「高・大・社接続」の二つを議題にして、2グループで話し合いを行う予定だ。

生徒会顧問の大内純教諭は「大きな提案だったが、生徒たちの考えは本質的に正論と捉えられた。課題を見つめる力は重要で、社会に出て役立つ」と生徒会の活動を見守る。

将来的には県全体の生徒会事業として高校生による福祉事業や行政への意見発信ができる交流会を目指したいとしている。

(飯田勉)